

全日中事務局だより

▼全国的に「教師不足」が話題になっています。また、教員採用試験の倍率が下がってきているという報道も最近、よく目にしていくところだ。

このような中、「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会（以下、「特別部会」という）が本年十月五日、「中間まとめ」を公表しました。

▼十月十三日に「特別部会」が開催され、各教育団体から「中間まとめ」についてのヒアリングおこなわれました。全日本中学校長会として、副会長及び部長から意見集約を行い、本会としての意見を述べましたので、以下にその内容を記載します。なお、紙面の関係から意見の一部を抜粋して掲載します。

▼教師の養成・採用・研修等の在り方について(中間まとめ)についての意見
一 「教師に共通的に求められる資質

能力」を踏まえた教職課程の在り方

○教職に就いてからも資質向上を図ることとなるが、学校体験活動など、教職に就くまでの期間においても学校現場との積極的な連携等を通じた醸成が重要であると考える。

○今後、教職に就く人が身に付けなくてはならないことは多岐にわたるが、教師として最も大切なものは「教職に必要な素養（豊かな人間性、使命感、責任感、教育的愛情、人権意識、倫理観、社会性等）」であると考える。

○「教師に共通的に求められる資質能力」の「⑤ICTや情報・教育データの利活用」については、令和4年度から教職課程での科目の必修化が行われたが、令和答申にある「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」を実現するには、ICTは不可欠である。

二 「教育実習」等の在り方の見直し

○全ての学生が一律に教職課程の終盤に教育実習を履修する形式を改め、それぞれの学生の状況に応じた柔軟な履修形式が認められることには賛成である。

三 教職課程における多様な専門性を有する教師の養成

○教師としての「強みや専門性」を学生のうちに身に付けるために、教職課程に位置付けられた科目以外の科目の履修等を行うことで教職課程の履修を断念せざるを得ない状況が生じるのは、「多様な専門性を有する教職員集団の構築」と言う観点から大きなマイナスである。そのため、最短2年間で取得できる二種免許状を念頭において教職課程の特例的な開設には賛成である。

四 優れた人材を確保できるような教員採用等の在り方

○民間企業の就職活動が早期化している状況を踏まえ、教員採用選考試験

のスケジュールの早期化や複線化について検討することには賛成である。

○民間企業等の勤務経験者に対する面接を中心とした特別な選考の拡充は、現在教職に就いていない人の教職への入職を促進する方策としてはよいと考える。

五 多様な専門性や背景を持つ人材を教師として取り入れるための方策

○優れた知識や経験等を有する社会人を教職に迎え入れる制度として、特別免許状があることはよいと考える。また、教員不足という状況にもあるために有効な活用が必要と考えるが、採用に当たっては慎重であるべきである。

六 校長等の管理職の育成及び求められる資質・能力の明確化

○公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針が改正され、「校長に求められる基本的な役割」を果たす

上で求められる資質能力として、「アセスメント能力」と「ファシリテーション能力」が加わった。また、これからの時代に必要な教師の学びを実現する「新たな研修システム」では、教師と対話をしながら、計画的・効果的な研修の受講を奨励し、

「令和の日本型学校教育」の推進に向けた原動力となる教師を育成することも管理職としての大きな役割となる。このような中、教育管理職志望者が減少している状況は、来年度から始まる地方公務員の定年年齢の順次引き上げにより、一層進むことが危惧される。

九 義務教育九年間を見通した教員免許の在り方

○小中一貫教育校や義務教育学校が増加するなど、義務教育9年間を見通した教育の重要性は増していると考える。そのような中、小学校教諭と中学校教諭の両方の免許状を保有す

ることは有益であるが、これにより学生が2つの教職課程に取り組むことは現実的でない。

十 多様な働き方改革の一層の推進

○「学校における働き方改革の一層の推進」があつて初めて「質の高い教職員集団の構築」に繋がるのではないかと。国として「働き方改革」を協力を進めるメッセージが様々な場面で伝わることにより、多くの学生等が教職を目指すことに繋がるのではないかと。

○忙しくて疲弊している教師の姿を目の前にしては、「教師になりたい」という思いをもつことはない。授業だけが教師の仕事ではないし、勤務時間内での業務遂行を目指すのであれば、学習指導要領に定められた各教科の指導内容の精選、教職員定数の見直し、授業の持ち時数の軽減を実施するべきである。

(事務局長 富士道正尋)